

導入事例

MediCrysta

LCD-
MDQ271A

手軽に導入できて放射線技師の業務効率 UP に貢献 DICOM ガンマカーブ対応の医用画像参照用ディスプレイ



ばば脳神経外科・救急科・健診クリニックでは、レントゲン、MRI、CTなどの撮影した画像を集約し、画像を確認するための、検像用モニターとしてLCD-MDQ271A（以下MediCrystaと表記）を導入しています。同クリニックで放射線技師をされている國貞達也様は、1日に数百、数千枚もの膨大な量の画像を見ていらっしゃいます。そんな國貞様がMediCrystaの利用によって画像が見えやすくなり、業務効率があがると感じられた理由を詳しく伺いました。



導入商品

3.6MP医用画像参照用
27型ワイド液晶ディスプレイ
MediCrysta[LCD-MDQ271A]

白黒のコントラストがハッキリしており、黒い部分がより黒く見える

— MediCrysta はどのように利用されているのでしょうか。

MRI、CT検査の操作コンソールの後ろにあたる場所に置いて、検査しながら、リアルタイムで過去の画像や、撮った画像の確認をしています。

主な用途は、撮った画像で異常所見があるかどうかを実際に放射線技師が確認するところです。何かあれば医師の方に提案や相談して撮影する検査内容を追加する場合がありますので、そのために、まず放射線技師が最初に確認しています。

— MediCrysta にどのような印象を持たれましたか？

全体的にコントラストがかなりしっかりしているので、くっきりはっきりと見えます。はじめて見たときからかなり見やすく、綺麗な画像表示だなという印象を受けました。

— 例えば、手関節の画像ですと、どのようなところが分かりますか？

パッと見た時に、一見何もないようには見えるんですけど、実際はかなり細かい骨折の疑いというのがあって、以前のモニターだとコントラストがあまりはっきりしなかったので、ぼやとしていて気づきにくいところがありました。コントラストがついてることによって黒い部分がより黒く見えるため異常所見としてこの後のCT検査につなげて骨折を指摘できます。

— 他にどういった画像が見えやすくなったという例はありますか？

一番実感したのは、検診などでよく行われるバリウムを飲んで行う検査です。そこでの異常所見で明らかに以前まで使っていたモニターとの差がはっきりわかりました。以前のモニターは全体的に白い感じで、白黒の濃淡があまり付いてない状態だったんですけども、MediCrystaで見た時に、白黒のコントラストがはっきりつくようになりました。だから、今までは濃淡を付けるために白黒反転をして画像の確認を行っていたのですが、白黒反転しなくても一目瞭然で異常所見がわかるってぐらい綺麗な見えた症例ではありました。



異常所見の指摘に貢献

MediCrysta で業務効率アップ、救急外来でも導入したい

— 放射線技師が見えやすくなったっていうところはすごくメリットが大きいですか？

患者様の検査を行ってる中で、前の患者様の画像を確認したりというのも業務の中で常にありますので、実際のところじっくり時間をかけて見るということが今まではできていませんでした。

そこでやっぱり一目見て第一印象で疑いをかけられるということで、かなり画像を見る時間の短縮にはつながっているかなというふうに思います。

— 1日に何百枚もの画像を見るということですが、時間を短縮できると業務効率に完全に繋がりますよね

はい

— MediCrysta が役立ちそうな他の場所や、他の活用方法はありますか。

当院の場合は救急科も掲げてますので、救急外来という形で外から救急車などで来られた患者様には、すぐに検査して救急外来の部屋で画像を説明しながら診察を行います。

なので、その救急外来の部屋にMediCrystaのような質の高いモニターっていうのがあれば、救急の先生も患者様説明の際などにもかなり役立つんじゃないかなというふうに考えています。

— 他のクリニックさんも全然導入の機会ありそうですね。

診察の時の画像参照用モニターという形でこのモニターを使えば、かなり見やすくなるのではないかなと思います。

取材にご協力いただいた担当者様



ばば脳神経外科・
救急科・健診クリニック
放射線技師

國貞 達也 様

CLIENT DATA

導入病院 / ばば脳神経外科・救急科・健診クリニック



所在地 / 大阪府堺市

設立 / 2024年